

関係各位

愛知県農業総合試験場長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和3年度病害虫発生予報第12号(3月)

担当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-62-0085  
内線 471  
ファックス 0561-63-7820

## 令和3年度病害虫発生予報第12号(3月)

令和4年3月4日  
愛知県

### 普通作物

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
コムギ	赤さび病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量はほぼ平年並	± + ±

#### ・防除対策

##### [コムギ・赤さび病]

コムギ赤さび病は、気温が12~20℃かつ葉面に水分があると、感染可能であることが知られています。3月3日現在、感染好適条件は出現していませんが、今後の気象予報に注意してください。

本病を防除するためには、茎立後~止葉抽出期に1回目の薬剤散布、開花期に赤さび病防除も兼ねた2回目の散布を実施すると効果的です。各ほ場の生育段階に合わせてワークアップフロアブル、アミスター20フロアブルなどで防除を実施しましょう。

なお、前年発生が多かった地域では、特に注意しましょう。また、多肥は発生を助長するので、肥培管理を適正に行いましょう。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	前年秋期の発生量が多い 3月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	前年秋期の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い	＋

### ・防除対策

#### [ナシ・黒星病]

発芽前までに石灰硫黄合剤で防除しましょう。また、鱗片組織から芽基部組織への発病を減らすため、りん片発病芽は見つけ次第除去し、デランフロアブルやICボルドー48Q（開花前まで）などでりん片脱落期に防除しましょう。なお、薬害の心配があるので、石灰硫黄合剤との散布間隔は2週間以上空けるようにしましょう。

#### [ブドウ・黒とう病]

越冬伝染源である棚に残った巻きひげや被害枝などは見つけ次第、園外へ持ち出して処分しましょう。特にシャインマスカットは巨峰より本病に弱いため、防除を徹底しましょう。デランフロアブルやベンレート水和剤などで休眠期防除を実施しましょう。

### ・留意事項

モモでマルカイガラムシ類の発生が多いほ場では、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い 3月の降水量はほぼ平年並	－ ＋ ±
タマネギ	白色疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	葉かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	コナジラミ類	多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の気温は高い	＋ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い	+
	灰色かび病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	- ±
	すすかび病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	- ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い	- +
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い	- +
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	- ±
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い	- +

## ・防除対策

### 〔トマト（施設）・コナジラミ類〕

11月1日発表の「病害虫発生予察注意報第11号」を参考に防除しましょう。コナジラミ類は、トマト黄化病の病原ウイルス（T o C V）を、タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（T Y L C V）を媒介します。気温の上昇に伴い増殖しやすくなりますので、黄色粘着板などを設置して発生状況に注意するとともに、発生量が多くなる前に防除しましょう。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

### 〔ナス（施設）・うどんこ病〕

発生が多いほ場ではショウチノスケフロアブルやパンチョTF顆粒水和剤などで防除しましょう。

## ・留意事項

キャベツでは、春先に気温が高くなるとコナガの成育が早くなり、発生量が増加します。発生を確認したら速やかに防除しましょう。収穫終了後は、残さを速やかにすき込みましょう。

タマネギの白色疫病及びべと病の発生株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。発生を確認したほ場では、速やかに薬剤で防除しましょう。

施設野菜の灰色かび病は、多湿条件下で発生が多くなります。気温が高くなると加温機が稼働せず施設内が多湿となりやすいので、過剰なかん水を避け、日中の換気や送風、夜間の加温などを行い湿度を下げるようにしましょう。発病が見られるほ場では、発病果や発病葉は速やかに取り除き、防除しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生量は多くありませんが、多発しているほ場もあります。多発すると防除が困難になるので、早めに防除しましょう。ハダニ類やアザミウマ類は、例年、気温の上昇とともに発生量が増加します。施設開口部や吸気口の付近等発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。天敵を導入している、あるいは導入を予定している場合は、それらの影響日数に注意して農薬を選定しましょう。

## 花き

### ・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。ウイルス病などの病害が発生していない親株から穂を採りましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台3月3日発表）

〈特に注意を要する事項〉

寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに30%です。日照時間は、平年並40%、多い確率30%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率20%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%